

丸山真男著「政治の世界」丸山真男集第5巻(1950-1953)、岩波書店1995年11月7日刊を読む

政治世界 - 権力の生産および再生産の過程 -

1. 統治関係を中心として権力の生産および再生産の過程を図式化してみましょう。その場合には政治状況の公式は次のような複雑な形として、展開されます。

$$(C -) \overset{P}{\text{D - L - O - d}} (- S)$$

2. この公式で、Dは支配従属関係(domination and subjugation)を現わし、Lは政治権力の正統化(legitimation)を、Oは政治権力の編成及び組織(organization)を、dは権力・利益・名誉等社会的価値の分配(distribution)をそれぞれ現わしています。

3. この各段階について次の章から具体的にお話ししていくわけですが、ここでごく一通り説明すると

(1)最初の括弧に入れたCは紛争です。

(2)たとえば国家と国家の間に紛争が起り、A国がB国を征服併合すると、ここにABの間に支配関係が設定される。

(3)あるいはA階級とB階級との間の闘争の結果A階級がB階級を従属させる。

(4)これは集団間の外交関係からいえば紛争の解決ですが、集団内部の統治関係はまさにここから始まるわけです。

(5)この場合Aは治者となりBは被治者となります。

(6)支配従属関係は成立の当初に於いては赤裸の実力即ち物理的強制による圧伏が前面に出ますが、やがてBはAに対してその支配の正統性を明示的にか黙示的にか承認する段階となります。

(7)そうすると今度は支配関係を法的に編成する段階、すなわち権力を担う諸々の機関が法的に組織化されるようになります。

(8)ここで始めて統治関係は臨時的なものから恒常的な関係へと推移するわけです。

- (9)しかし如何なる統治関係も被治者を社会的価値への参与から全面的にシャットアウトすることは出来ません。
- (10)そこで権力、財貨、名誉等を統治の根幹を揺がさない限りにおいて、広く被治者に配分するということが行われます。
- (11)この場合被治者がどの程度そうした価値に参与出来るかということは治者、被治者の力関係に依って決定されます。
- (12)かともかくこの段階を経てはじめて統治権力の安定ないし均衡(stability or equilibrium)がもたらされます。
- (13)そうしてその均衡が破壊される時、新たな紛争が起ります。
- (14)この紛争の結果再び支配従属関係が更新され、ここで統治関係のサイクルは完結するわけです。
- (15)もしその新たな支配従属関係に於て、治者と被治者の関係が顛倒するならば、そこには革命が成立したということが出来ます。
- (16)革命権力はこうして新たな正統性を求める段階へと進んで行きます。
- (17)また紛争が新たな支配従属関係の設定に終らず、被支配者がその政治集団を離脱して別個の政治集団を作ることに依って紛争が解決される場合もあります。
- (18)例えば植民地の母国よりの独立とか、或いは政党が分裂して別個の政党を組織するというような現象がそれです。
- (19)こうなると AB は統治関係ではなくしてふたたび前に述べた広義の外交関係つまり権力並列関係へと転化するわけです。

P145 ~ 147

[コメント]

現実の政治がこのとおりのプロセスになっているとはいえないことも多いが、よく事物の本質(本性)をとらえた見解だといつも感心する。混迷を深める世界や日本の政治の世界を見る目を養う上でとても参考になる丸山先生の 1 の著作。

- 2010年4月29日 林明夫記 -